

# 令和3年度 医療と介護の意見交換会 —人生の最期をどのような形で迎えたいですか?— 「もしバナゲーム 体験会」

## 参加者

- A 笹本基秀(笹本内科医院) 山田紀子(中部包括)  
西尾恵(愛泉館居宅) 山内富恵(グッドライフサポート)
- B 加藤知恵美(中部包括) 山下英子(日進ホーム居宅)  
平田彩(日進居宅) 野村圭一(地域福祉課)
- C 岩本佐美(愛知国際病院) 佐光奈穂子(やまびこ)  
鈴木豊(サンライフ居宅) 島津ありさ(地域福祉課)
- D 高橋あすか(愛知国際病院) 横山利美(西部包括)  
市川綾乃(ふれあい介護) 長草梨香(地域福祉課)
- E 岡田みどり(愛知国際病院) 横山英治(東部包括)  
福永貴代子(はじめの一步) 河端裕子(あんじゅの森)
- F 近藤さつき(訪看心のポケット) 太田岬来(中部包括)  
山下洋太(マリオネット居宅) 加藤章子(やまびこ)

進行 徳井春美(やまびこ)

日時： 令和 3年 11月 25日(木) 13時 30分 ~ 15時

場所： 日進市中央福祉センター多機能室南(2階)

【お問合せ】

日進市の在宅医療・介護連携支援センター(やまびこ日進) TEL0561-75-5512

# 令和3年度 医療と介護の意見交換会

～ひとりひとりが人生の最期をどのような形で迎えたいかを考えてみましょう～

## 「もしバナゲーム 体験会」

ーACPについて知りましょうー

### ☆ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは？

- ・患者さん、代理決定者、医療者等が、将来の変化に備え、**将来の医療やケアについて患者さんの意向や大切なことを、あらかじめ話し合うプロセスのこと**
- ・プロセスを共有することが重要で、患者さんがどう考えているかについて深く理解することができる

### ☆ACPでは何を話し合えばよいですか？

将来の変化に備え、患者さんの意思を尊重した医療・ケアを提供し、その人生の締めくくりの時期に寄り添うために必要と考えられる内容について話し合うことが必要

たとえば…

#### 患者さんの状況

- ・家族構成や暮らしぶりはどうなのですか？
- ・健康状態について気になる点がありますか？
- ・他にかかっている医療機関や介護サービスの利用はありますか？

### 患者さんが大切にしたいこと（人生観、価値観、希望など）

- ・これまでの暮らしで大切にしてきたことは何ですか？
- ・今の暮らしで、気になっていることはありませんか？
- ・これからどのように生きていきたいですか？
- ・これから経験してみたいことはありますか？
- ・家族等の大切な人に伝えておきたいことは何ですか？
- ・最期の時間をどこで、誰と、どのように過ごしたいですか？
- ・意思決定のプロセスに参加してほしい人は誰ですか？
- ・代わりに意思決定してくれる人はいますか？

### 医療及びケアについての希望

「可能な限り生命を維持したい」「痛みや苦しみを少しでも和らげたい」「できるだけ自然な形で最期を迎えたい」などの希望が考えられますが、病状等も含め状況は様々です。医療関係者より、適切な情報提供と説明がなされた上で、患者さんやご家族等と話し合いを重ねていくことが重要です

### ☆ACPのまとめ

- ・患者さんの意思を尊重した医療及びケアを提供し、**尊厳ある生き方を実現することがACPの目的です**
- ・医療及びケアの提供は、**患者さんの意思が一番大事**です。それを確認するために、ACPの実践が必要です
- ・患者さんが意思を明らかにできるときから**繰り返し話し合い**を行い、**その意思を共有することが重要**です
- ・患者さんの**意思が確認できなくなったとき**にも、それまでのACPをもとに**患者さんの意思を推測**することができます
- ・**かかりつけ医を中心に多職種が協働し、地域で支える**という視点が重要です

## ☆なぜACPのような工夫が必要なのですか？

- ・患者さんが望む医療及びケアについて、その意思を確認できなくなるときが、いつ訪れるのかを予測することは困難です
- ・一方、終末期においても患者さんの尊厳ある生き方を実現するためには、患者さんの意思が尊重された医療及びケアを提供することが重要です
- ・患者さんの意思を尊重し、その人生にとって最善となることが見込まれる医療及びケアが実現することは、残されたご家族等にとっても、きわめて重要な意味を持ちます
- ・予測されない急激な変化が起こることもありますので、患者さんが意思を伝えられるときから、その意思を共有しておくことが重要です  
たとえば、高齢者健診などをきっかけに、話し合いの機会をもつことも考えられます

## ☆ACPの留意点がありますか？

- ・ACPは、前向きにこれからの生き方を考える仕組みです。その中に、最後の時期の医療及びケアのあり方が含まれます
- ・主体はあくまでも患者さん本人です
- ・患者さんの意思は変化する可能性がありますので、繰り返し話し合うことが重要です
- ・地域で支えるという視点から、かかりつけ医を中心に、看護師、ケアマネジャー、介護職、ソーシャルワーカー等の多職種で、患者さんの意思に寄り添うことが理想です
- ・その場で決まらないこともありますので、話し合いの内容は、その都度、文章にまとめておくことが大切です
- ・まずは、話し合いのきっかけをつくったり、話し合いのプロセスの場を提供することが重要です

## ーもしバナゲーム体験会ー

### ☆ゲームのやり方・ルール

1. カードは全部で36枚  
各プレイヤーに5枚ずつカードを配ります（手札）  
次に、残りのカードを中央に積み（積み札）その周りに中央のカードから5枚のカードを表向きに置きます
2. 自分の順番が回ってきたら、手札の中から不要なカードを1枚、置かれたカードと交換していきます  
（なければパス）  
⇒自分が余命6カ月と宣告されたときに、大事にしたいと思うことをカードから選ぶ
3. 全員がパスをした時点で、置かれた5枚のカードを流します  
積み札から新たに5枚のカードを表向きに置きます
4. これを繰り返し、中央の積み札がなくなって置くカードがなくなったらゲーム終了
5. 各プレイヤーが、手元にある5枚のカードから特に大切なカードを3枚選ぶ  
⇒自分が余命2カ月だと考えたときに、大事にしたいと思うことを3枚選ぶ

### ☆各プレイヤーが、その3枚を選んだ理由をグループ内で説明

グループの意見から印象に残ったことと、全体での発表者を決める

### ☆各グループから印象に残ったことを発表

## ☆「4つの願い」を考えて記入

1. 自分自身で判断・決定ができなくなったとき、あなたに代わってあなたの医療やケアに関する判断・決定をして欲しい人
2. あなたが望む医療処置・望まない医療処置 → [延命治療](#)
3. あなたの残された人生を快適に過ごし、充実したものにするために、どのようにして欲しいか
  - \* [快適に過ごすため、家族や医療・介護に関わる人に実行して欲しいこと](#)
  - \* [自分が苦痛と覚えることは何なのか](#)
  - \* [苦痛を和らげるため、何が必要なのか](#)
4. あなたの大切な人に伝えたいこと

## ☆「4つの願い」について、グループ内で発表（理由や想いも含めて）

グループの意見から印象に残ったことと、全体での発表者を決める

## ☆各グループから印象に残ったことを発表

## ☆笹本先生から総括

## 令和3年度 医療と介護の意見交換会 「もしバナゲーム体験会」

### ☆各グループでその3枚を選んだ理由で印象に残ったこと

A 共通の意見として、家族や一番大切な人や信頼できる人に近くにいて欲しい。

余命6カ月から2カ月へと進んでいく中で、準備ができるということなので、自分の病状をしっかりと理解して、周りの方にみてもらいながら自分の最期を送りたいという気持ち。

痛みがないこと。痛みがあると不安につながるし痛みがないようにして欲しい。

時間があるということで、大切な人とお別れをしたり、繋がりを持って最期を迎えたい。

B 共通していたのは、医療に関するカードを皆が1枚ずつ持っていて望む治療ができるや信頼できる医師がいるを、残していました。残りの2枚のカードはばらばらで、明確に延命治療をして欲しくないの自分の意思が最期までちゃんと伝えられるようにしたい。逆に信頼できる、信頼している医師なので好きにしてという意見もありました。

家族の気持ちがわかるから、迷惑をかけたくない。家族や大切な人に守られながら最期を迎えたい。

今の時点ではこの結果になっているが、30年後やると違うカードを選ぶだろうと感じた。

C 皆さんいろいろ想いがあって、人生最期を1人で過ごしたくない。

望む形で治療やケアをしてもらい、穏やかな気持ちで最期を迎えたい。

生活の中で心の豊かさを感じていたい。

人との暖かい繋がりをもち、家族の負担にならないように家族へのやさしさを持ち続けたい。

最期は良い人生と思えるように、穏やかに過ごせるようにという思いは共通している。

6カ月前の想いと2カ月前の想いは違うということ。

D 共通点は、心と身体の不安がなく安定していること。

痛みがない、呼吸が苦しくない、睡眠に不安がない。

家族や大切な人と最期まで一緒に、ひとりではないということ。

大切な人とお別れをするということで心の整理をつけるためにも、今までお世話になった人とかに感謝のことばをしっかりとことばで伝える。2カ月前ということで普段言えないようなことも言って、心の整理がつけられると良いと思う。

E 本人から、本当は怖いんだという想いを伝えることは勇気のいること。そこが言えるということはすごく大切なことだと思う。

苦しくない、痛みがないのも、もちろん大事なのでその時々で適切な治療をしてもらう。

実際にお金がかかることもあるから、保険に入っておくのも大事なのかなと思う。

F 6カ月の時には一生懸命治療もしたいし、あれもしたいこれもしたいとあるけど、2カ月になった時点で治療ではなくて、自分の好きなこととか、家族と一緒に過ごしたいと思う。  
余命が短くなっていくほど神様に祈らなくなるという傾向にあったと思う。

### ☆各グループで「4つの願い」についての発表で印象に残ったこと

F ゲームをしたことによって、普段考えないことを改めて考えました。「4つの願い」を集中して時間をかけて考えさせてもらいました。

- 1 自分で判断できなくなった時、配偶者という意見の中、1名は未婚ということもあり親に任せるのはあまりにも想いが強くなりすぎるので、それならば年齢も近い兄弟にしてもらいたいという意見。
- 2 医療処置を望む望まないに関しては、苦痛なく快適に過ごすことにつながると思う。  
一言で延命治療をどうしますか？と言ってもどこが延命でどこが延命じゃないの？と… 捉え方もあり、ひとつひとつ丁寧に伝えて最後は本人が感じることを大切にする。
- 3 苦痛の緩和。痛みを取ることは共通意見です。
- 4 残された家族はこれで良かったのかなあときっと思う。なので、私はこれで良かったよ、ありがとうと伝えられたら良いです。

E

- 1 自分の意思は前もって家族とかと決めておく。最終的には家族に任せたい。
- 2 延命治療はしないけど、痛みや苦痛を和らげる薬は使って欲しい。
- 3 家族や周りの人に負担をかけたくないが。できるだけ自宅で家族に囲まれて過ごしたい。  
ただ、最期本人が苦しくて家族が見られないような状況ならちょっとの間だけでも入院して、また戻ってきても良いので臨機応変で、家族の負担をみて対応して欲しい。
- 4 自分のことを家族に感謝して、家族にはあなた自身を大切にしたいと伝える。



D

- 1 夫や娘という意見と、自分のことに感謝してくれているので母親という意見もあり。
- 2 酸素はするとか末梢からの点滴はするとかなど、線引きが難しい。
- 3 辛い症状はもちろん取って欲しい。栄養に関しては口から食べたい。排泄に関しては最後まで自分で行きたいという意見。

家族の日常を壊さないような形で過ごしたい。過剰な介護はிரらない。

- 4 感謝の言葉を言いたい。

C 職場に帰りこれをやっていくとなると… 今日私たちは真剣に考えました。患者さんや家族と考えていくことは、すごく難しいことだと改めて感じました。

- 1 家族という意見が多かったですが、家族では決められないかもしれない… そういう時はどうするかを考えて、医療者へということもあり。
- 2 延命治療ということば… 望む治療と望まない治療、一般的に心臓マッサージ・人工呼吸器に関して
- 3 助かるのであればやって欲しい。経管栄養については口から食べるということが自分の中では大切なこと。
- 4 感謝する言葉を一人一人個々にかけたい。普通に遺言制作。

B

- 1 自分にとって1番に選択してくれる人に意見を託したい。
- 2 苦しみたくない、痛いことは嫌というところで治療を望んでいる。  
お金がかかりすぎても困るし経済的なところも考える。
- 3 病気になる前から生きている自分自身の望んでいることをやって欲しい。マイペースな性格ならマイペースに過ごせるようにして欲しいとか、周りの人に影響を受けやすいから、周りの人が辛い想いをしないようにして欲しいとか。
- 4 感謝の気持ちを伝える。

A 人生の最期を漠然と考えたりしているが、真剣にひとつひとつをまだまだ考えていかないと実感した。

- 1 家族・子供・信頼できる医師、自分のことを理解している医師にということもある。そういう関係性を作っておくことは大事。

2 どこからが延命治療かの判断が難しい。できれば、意思があるうちに自分で意思決定をしたい。

苦痛症状は取ってもらいたい。

自分の意思と反して生かされる治療はしないで欲しいということは、実際に子供たちに伝えている。

その場面になった時に果たしてそれが選択できるのかは難しい。日頃からきちんと話しておくことが大事。

3 自宅で穏やかに日常を過ごしたい。

苦痛には身体的苦痛と精神的苦痛があり、身体的苦痛には医療の力を借りて少し解決できるのか…

精神的苦痛を緩和するためにどうしたら良いのか、新たな課題を感じる。

4 感謝の気持ち。

自分自身のことを忘れないで欲しい。

#### ☆やまびこ日進から

ACP の話を自分の大切な人（夫、妻、こども）とすることはなんとなく抵抗があります。

死のことをそういう場で、皆の前で話すのも… という思いなど多々ありますが、本当に自分自身で意思決定できなくなったときに、自分の望まない方向に進んでいくということは、絶対にして欲しくないと思います。

もしバナゲームはすごくとっつきやすいゲームだと思います。やまびこ日進にとりあえず6個あるので、家族でやってみますとか、年末年始に家族が集まるのでやってみますとか… ありましたら、声をかけてもらえればお貸しします。いつでも電話してください。

#### ☆笹本先生から

今回の経験は初めてです。ACP は数年前から取り上げていますが、このことに関して何が正しいということはないので、制度としてどうやろうかといろいろ検討されています。

みなさんの意見もいろいろあったように、確かに本人の意思を尊重したいことは当然あるわけで、制度上どうやって設定するのか… 難しいです。

本人の気持ちも変わっていくし、家族の気持ちも変わっていくこともあって。基本的にいうと、家族の関係も様々です。独居の方もいます。家族がいても関係の悪いこともあります。

ひとつひとつ個別に考えると本当に難しいです。

今日の会で私自身もみなさんも初めてここで考えたこともあって、なかなか面白い取り組みだと思いました。

いろいろな看取りを経験してきました。

ACP で何でも解決できるわけではないし、我々自身の人生観や日常も大きいです。

これはこうなんだ！と押しつけることも難しいです。

だから早く決めておきなさいと、言うのも難しいです。

結局、自分がこれまでやってきて、これまで勉強してきたことを踏まえた上で、やっぱり ACP と本人が望まれたら、かなえてあげたい。

何をしてあげればよかったのかなと想うことがあるかも知れない。

そういうことを考える良い機会だったと思います。